

南高図書館だより

2023年10月号
浦和南高校図書館

図書委員のおすすめ本



『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ 著 新潮社/新潮文庫

「星の王子さま」は、アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリによる児童文学作品です。主人公である星の王子さまが地球を訪れ、そこで出会った少年との出会いを通じて、人間の本質を問いかける物語となっています。星の王子さまが地球で遭遇する草花や動物たちとの交流や、人間の大人とのやりとりなど、細かい描写が随所に散りばめられ、物語の深いメッセージ性が際立っています。数々の名言を生んだこの作品は、誰しも心に響くものがあると思います。長年愛され続け映画化もされるなど、数多くの人々に影響を与えている素晴らしい名作です。

『収容所(ラーゲリ)から来た遺書』

辺見じゅん 著 文藝春秋

これは去年、「ラーゲリより愛を込めて」という映画で実写化されました。第二次世界大戦後にシベリアに抑留され、強制収容所(ラーゲリ)で死んだ山本幡男の遺書は、ソ連の厳しい監視網をかいくぐり、共に苦しい状況乗り越えてきた仲間たちによって、日本にいる山本の家族に伝えられます。この本は事実を元に作られたもので、当時の収容所の様子などが細かく書かれています。悲惨な結果ではあったけど、過酷な状況下でも明るく振る舞い、周囲を元気づける山本さんに心打たれる作品です。



『化物語 上・下』

西尾維新 著 講談社/講談社BOX

アニメ化もされた大人気「物語シリーズ」の第一作。日本のとある地方都市を舞台に主人公である阿良々木 暦(あららぎ こよみ)が、噂や信仰、都市伝説などから生まれてしまう「怪異」に関わってしまったキャラクターたちにまつわる事件を解決していく物語。登場人物同士の掛け合いのテンポ感の良さ、そして、会話の中に織り交ぜられる西尾維新らしいギャグが本書の魅力です。いわゆるライトノベルが好きな人や近年人気の高まっているアニメが好きな人は是非手に取ってみたいかがでしょうか。

図書館からのお知らせ

◆さいたま市立高校・さいたま市図書館コラボ企画◆

第6回POP交換展示やります！

市立浦和南高校⇄武蔵浦和図書館

中高生と図書館員が思いをこめて作ったPOPを交換するイベントです。南高生の作成したPOPを武蔵浦和図書館で展示し、武蔵浦和図書館の図書館員の作成したPOPを南高図書館で展示します。

展示期間 令和5年11月15日(水)から12月8日(金)まで

★武蔵浦和図書館は11月14日(火)から12月10日(日)まで



前回の展示の様子
(写真左,南高図書館 写真右,武蔵浦和図書館)



さいたま市図書館ホームページ※に今回のイベントについて掲載される予定です。

※URL: <https://www.lib.city.saitama.jp/contents?9&pid=7324>
(10月20日現在、前回のイベント内容が掲載されています。)



知識の本

あなたも明日は裁判員！？

飯考行、裁判員ラウンジ 編著 日本評論社

2022年から裁判員になれる年齢が18歳以上になった。この本は、裁判員制度施行10年を機に刊行された、裁判員についての市民向けガイドブック。裁判員制度の平易な説明、経験者による「裁判員あるある」だけでなく、裁判員制度の抱える課題とその解決策まで論じる。

エレガントな毒の吐き方 脳科学と京都人に学ぶ「言いにくいことを賢く伝える」技術

中野信子 著 日経BP

迷惑をかけられた時や不快に思った時、相手に本音をぶつけて傷つけあうのではなく、相手を静かに見下しながら距離を取る、京都人の「NOを言わずにNOを伝える」技術のレッスン。

CRISPRってなんだろう？ 14歳からわかる遺伝子編集の倫理

ヨローナ・リッジ 著 アレックス・ポーズマ 画 坪子理美 訳 化学同人

遺伝子編集の新しい技術「CRISPR(クリスパー)」。この技術は、遺伝子工学の世界を大きく変えた。現在は完全に治す方法がない病気を治したり、ある生物を絶滅から守れるかもしれない世界へ。CRISPRは何に應用できるのか、その影響(良いものも悪いものも)も含めて考える。

ぼっちな食卓 限界家族と「個」の風景

岩村暢子 著 中央公論新社

定点観測の場として徹底した食卓調査を続け、同一家庭の10年後、20年後を追跡した。子どもの好みを尊重して、好きな食べ物を子どもに選ばせていた家庭。食事の食べ方を厳しく言い続けていた家庭。これらの家庭は、その後どうなったか。

夢の細胞農業 培養肉を創る

羽生雄毅 著 さくら舎

「細胞農業」とは、細胞を使ったものづくり。目に見えない大きさの細胞を培養して、お肉や野菜をつくることができる。培養肉を中心に、細胞農業の現在と未来を、わかりやすく解説する。

悪口ってなんだろう

和泉悠 著 筑摩書房／ちくまプリマー新書

悪口とは、「誰かと比較して人を劣った存在だと言うこと」。攻撃的なことば＝悪口ではない。その違いとは何か。なぜ冗談でちょっと言ったことばで悪人扱いされるのか。悪口を正確に理解して、それとどう付き合っていくか、ヒントを得るための本。

校閲至極

毎日新聞校閲センター 著 毎日新聞出版

新聞校閲作業を担当する記者数人が持ち回りで執筆した、『サンデー毎日』連載コラムを書籍化。毎日直面する誤字や不適切表記、正解のない問題にあがき続ける現場の姿を伝える。

英語の発音はこの15語だけで身につきます！

頼野えりこ 著 Gakken

英語の頼野先生が出した本。たった15の単語を練習するだけで、英語の基本の42音がマスターできるテキスト。それぞれ発音の仕方やコツ、エクササイズ、同じ発音の別の単語などを収録。

小説・文学

かたばみ

木内昇 著 KADOKAWA

昭和18年、国民学校の代用教員になった梯子。幼馴染みの清一と結婚するつもりだったが、恋に破れ、下宿先の家族に見守られながら生徒と向き合っていく。やがて、よんどころない事情で家族を持つことになり…。血の繋がらない親子を描く、笑いと涙のホームドラマ。

それは誠

乗代雄介 著 文藝春秋

高校の修学旅行で東京を訪れた誠。生き別れになった「おじさん」に会うため、自由行動の日に班行動を離れることにした。個人行動のはずが、いつの間にか班全体を巻き込み、同じ班の三人の男子も誠につき合うことになる。四人の男子高校生たちの、一日限りの冒険の物語。

ラウリ・クースクを探して

宮内悠介 著 朝日新聞出版

ソ連時代のエストニアで生まれたラウリ・クースク。集団になじめない彼はプログラミングで才能を見せ、親友と出会うが、歴史に翻弄され引き裂かれていく。ラウリの生涯の話と、彼の伝記を書く「わたし」の取材の話が同時に進み、徐々にラウリと「わたし」の関係も明らかになっていく。

ボクの故郷は戦場になった 樺太の戦争、そしてウクライナへ

重延浩 著 岩波書店／岩波ジュニア新書

南樺太の町、豊原(とよはら)出身の著者。1945年8月の南樺太へのソ連軍侵攻から始まった、占領下の不安に満ちた日々や、悲劇だけではなくソ連兵との楽しい交流の体験などを記す。

文庫本

うるはしみにくしあなたのともだち

澤村伊智 著 双葉社／双葉文庫

クラスで一番美しく人気のあった羽村更紗が自殺した。彼女の死後、次々と女生徒が見えない力で容姿を傷付けられていく。真相を探る担任の小谷舞香は、この土地に伝わる人の容姿を変えるおまじない「ユアフレンド」の存在を知る。学園ホラーミステリー。

コンビニ兄弟 3 テンダネス門司港こがね村店

町田そのこ 著 新潮社／新潮文庫nex

九州門司港にあるコンビニ「テンダネス門司港こがね村店」。「フェロモンを泉の如く垂れ流している」名物店長の元には、今日も個性的な常連客と悩みを抱えた人たちがやって来る。

クマにあったらどうするか アイヌ民族最後の狩人姉崎等

姉崎等 語り手 片山龍峯 聞き書き 筑摩書房／ちくま文庫

アイヌ民族最後のクマ撃ち猟師、姉崎等(あねざき・ひとし)。「クマは師匠」と言う姉崎が、人間がクマと遭遇したときの超実践的クマ対処法を伝授する。人間とクマの共存の形とは。